

Cisco IQ Linkスタートアップガイドv1.1.0

はじめに

Cisco IQ™は、資産の可視性の向上、環境全体にわたるよりスマートな洞察の提供、およびケース管理の合理化を目的とした拡張機能をお客様に提供します。さらに、Cisco IQ AI AssistantなどのAI機能は、状況を適切に把握し、情報に基づいたプロアクティブな意思決定を可能にし、顧客エンゲージメントと成功のためのプロセスを合理化することで、運用成果とCisco IQユーザーエクスペリエンスを最適化します。

Cisco IQ Linkは、資産テレメトリを安全に収集し、オンプレミスネットワークからCisco IQに送信します。これにより、AIを活用した予測的な洞察が可能になり、ネットワークの可視性を高め、問題を予測し、運用効率を高めることができます。

前提条件

Cisco IQ Linkを設定およびインストールする前に、次の前提条件が満たされていることを確認します。

ハードウェアおよびVMリソースの要件

Cisco IQ Linkは複数のスケール容量でテストされており、お客様の環境の拡張ニーズをサポートするために複数の導入規模を提供します。次の表を参照し、予定されているデバイス検出数に基づいて適切なリソース構成を選択します。

表1：ハードウェアおよびVMリソース要件

Resource	10,000デバイス	20,000デバイス	50,000デバイス
vCPU	16	16	32
RAM	28 GB	28 GB	48 GB
ストレージ(SSD) (パフォーマンス向上のために)	600 GB	600 GB	600 GB

推奨)			
収集スケジュール	二十四時間以上	二十四時間以上	七日以上
サポートされるハイパーバイザ	<ul style="list-style-type: none"> VMware ESXi v8.0以降とVMware vSphere Web Client v8.0以降 Microsoft Server 2022および2025上のHyper-V RHEL v9.7上のカーネルベースの仮想マシン(KVM)ハイパーバイザ 		
サーバ	<ul style="list-style-type: none"> Unified Computing System M7以降のモデル 		
その他の推奨事項	<ul style="list-style-type: none"> シックプロビジョニングを使用することをお勧めします。シンプロビジョニングを使用することは可能ですが、オーバプロビジョニングはストレージ容量の不足を招き、その結果、パフォーマンスの低下やサービスの停止を招く可能性があります。 アプライアンスディスクは、SSDでバックアップされたボリュームに配置することを強くお勧めします。 ディスクの書き込み速度は70 MB/秒より大きくなければなりません。 		

ネットワーク要件

Cisco IQ Linkは単一のネットワークインターフェイスをサポートします。関連付けられている仮想マシン(VM)ホストネットワークは、直接またはプロキシ経由で、iq.cisco.comに接続する必要があります。ネットワーク環境でCisco IQへの接続にプロキシが必要な場合、Cisco IQ Linkのインストール時にこれらの設定を行う必要があります。


IPアドレスとホスト名の要件

次のIPアドレスとホスト名の要件を満たす必要があります。

- 使用可能なIPv4アドレス
- ドメインネームシステム(DNS):DNSは、数値のIPアドレスを人間が読める一貫性のあるホスト名に置き換えることにより、システム管理を簡素化します。このアプローチにより、安全な環境でメンテナンスが容易になり、シームレスなサービス統合と信頼性の高い証明書検証が可能になります。IPv4アドレスがDNSで次のように設定されていることを確認します。
 - Aレコード：ホスト名(myiscioqlink.mydomain.comなど)をIPv4アドレスにマッピング

します。

- Associated Pointer(PTR)レコード：逆DNSルックアップをサポートするために必要。IPアドレスが複数のホスト名に解決される場合、最初に解決されたホスト名がUIへのアクセスに使用されます。

 注:DHCPはサポートされていません。

Cisco IQ SaaSへの接続要件

米国、EMEA、またはAPJCの指定データセンターをご利用のお客様の場合、Cisco IQ Linkは以下に示す関連付けられた完全修飾ドメイン名(FQDN)の1つを使用してサーバに接続する必要があります。

- 米国:us-west-2.iq.cisco.com
- EMEA:eu-central-1.iq.cisco.com
- アジア太平洋/日本/中国:ap-southeast-2.iq.cisco.com

ポート要件

次の表に、Cisco IQ Link通信に必要なネットワークポートの概要を示します。


表2：ポート要件

ポート	プロトコル	説明
22	TCP	管理者CLIおよびシスコサポートデバッグセッションに使用されます。
443	TCP	Cisco IQ Link UIとAPI間の通信に使用
53、123、161	UDP	DNS、Network Time Protocol(NTP)、Simple Network Management Protocol(SNMP)トラフィックの送受信に使用されます。

サポートされるブラウザ

Cisco IQ Linkをインストールして起動するには、次のブラウザの最新の安定したリリースを使用する必要があります。

- Google Chrome
- Microsoft Edge
- Apple Safari
- Mozilla Firefox

 注：サポート対象は現行のブラウザバージョンに限定され、古いバージョンでは完全な機能が提供されない場合や、新しいアップデートのリリースに伴ってサポートされない場合があります。


Cisco IQ Link VMのインストール

このセクションでは、Cisco IQ Link VMのインストール手順の概要を説明します。現在の範囲には、次のハイパーバイザの手順が含まれています。

- VMware ESXi
- Microsoft Hyper-Vサーバ
- Red Hat KVMの場合

VMware ESXiへのCisco IQ Linkのインストール

Cisco IQ Linkは、Open Virtual Appliance(OVA)ファイル形式に含まれる展開可能なVMとして配布されます。

 注:OVAはVMware vCenterを使用して導入する必要があり、ESXiサーバに直接導入することはできません。

1. 管理者クレデンシャルを使用してVMware vSphere Web Clientにログインします。
2. 該当するvCenterオブジェクト（データセンター、クラスタ、またはESXiホスト）を右クリックし、Deploy OVF Templateを選択します。
3. Deploy OVF Templateウィザードで、テンプレートページを選択し、ソースの場所を指定して、Nextをクリックします。URLを指定するか、アクセス可能な任意の場所を

参照できます。

4. OVF Template Detailsページで、OVFテンプレートの詳細を確認し、Nextをクリックします。入力はありません。
5. Select a name and locationページで、仮想アプライアンスの名前と場所を追加または編集し、Nextをクリックします。
6. Select a resourceページで、導入する特定のHost(ESXi host)、Cluster、またはResource Poolを選択し、Nextをクリックします。



注：各VMは、vSphere HAまたは手動モードvSphere DRSで設定されたクラスター上の特定のホストに割り当てる必要があります。

7. Review detailsページで、OVAテンプレートの詳細を確認し、Nextをクリックします。
8. Configurationページで導入設定を選択し、Nextをクリックします。
9. Select storageページで、選択したESXiホストのVMファイルのデスティネーションストレージの場所を選択し、Nextをクリックします。
10. VM仮想ディスクのDisk Formatを選択します。



注：シックプロビジョニングの使用が推奨されます。シンプロビジョニングを使用することは可能ですが、ストレージを過剰に使用すると、ストレージ容量が不足し、サービスの低下や損失につながる可能性があります。

11. Select networksページで、送信元ネットワークを選択して、それを宛先ネットワークにマップし、Nextをクリックします。
12. Ready to CompleteページでPower On After Deploymentを選択し、Finishをクリックします。
13. VMware ESXiで目的のVMを右クリックし、Edit Settingsをクリックして、VMが次の追加設定で設定されていることを確認します。
 - CPU：最初の共有ドロップダウンリストから低を選択します
 - Memory:Reserve all guest memory (All locked)チェックボックスにチェックマークを付けます
 - スケールサイズに基づいてCPUとRAMを設定します。次を参照してください。[ハードウェアおよびVMリソース要件](#)を参照してください。

14. VMware ESXiで、目的のVMを選択します。

15. Summaryタブをクリックします。

16. 表示されたイメージまたはLaunch Consoleアイコンをクリックして、コンソールを起動します。
17. 次を参照してください。 [ネットワーク設定](#)』を参照してください。

Microsoft Hyper-V ServerへのCisco IQ Linkのインストール

シスコが提供するCisco IQ Link Hyper-Vバンドルは、.tar.gzファイルとして提供されます。Hyper-VにCisco IQ Linkをインストールするには：

1. 管理者の資格情報を使用してHyper-V Server Managerにログインします。
2. Hyper-V管理者によって定義された場所にCisco IQ Linkパッケージを展開し、すべての仮想ハードディスクを格納します。
3. 元のCisco IQ .tar.gzのすべてのディスクがVirtual Hard Disksフォルダにあることを確認します。
4. Hyper-V ManagerのActionsペインから、New > Virtual Machineの順に選択し、Nextをクリックします。
5. Cisco IQ Link VMに割り当てる名前を入力し、Nextをクリックします。
6. Generation 2を選択し、Nextをクリックします。
7. 推奨されるメモリサイズに基づいて、次の値を入力します。 [ハードウェアおよびVMリソース要件](#)』を参照してください。
Nextをクリックします。
8. Use Dynamic Memoryのチェックマークが外れていることを確認する。
9. Cisco IQ Link VMに適したネットワークアダプタを選択し、Nextをクリックします。
10. 提供されたCisco IQ Link仮想ハードディスクを追加し、ディスク1(1)が最初のディスクになっていることを確認して、Nextをクリックします。



注：残りの2つの仮想ハードディスクは後の手順で追加します。

11. Summaryの選択内容を確認し、Finishをクリックします。Hyper-Vは、新しく作成されたCisco IQ Link VMを表示します。
12. VMを右クリックして、Settingsを選択します。
13. Securityで、Enable Secure Boot チェックボックスのチェックマークを外します。
14. 最初のハードディスクの追加と同じ手順を繰り返して、残りの2つの仮想ハードディスクをVMに追加します。
15. ネットワークアダプタの下の拡張機能で、Enable device namingが選択されていることを確認します。
16. プロセッサの数を、に示すように、推奨vCPUに設定します。 [ハードウェアおよびVMリソース要件](#)』を参照してください。
17. Actionsペインで、Startを選択してVMの電源をオンにします。
18. Actionsペインで、Connectを選択してVMに接続します。VM Connectionコンソールが表示されます。

19. 次を参照してください。 [ネットワーク設定](#)』を参照してください。

KVMハイパーバイザへのCisco IQ Linkのインストール

KVMにCisco IQ Linkをインストールする前に、次のサポートされている要件を満たしていることを確認してください。

- RHELホストOS
- Red Hatサーバでの管理アクセス

KVMハイパーバイザにCisco IQ Linkをインストールするには、VM Managerが必要です。

1. 管理者クレデンシャルを使用してRed HatホストOSサーバにログインします。
2. ホストにCisco IQ Linkパッケージをダウンロードして解凍します。
3. Virtual Machine Manager (VMM)クライアントを起動します。
4. メニューでFile > New Virtual Machineの順に選択し、新しいCisco IQ Link VMをインストールします。
5. Import existing disk imageを選択し、Forwardをクリックします。
6. Provide the existing storage pathの下で、Browseをクリックします。
7. Cisco IQ Linkパッケージを解凍したパスを使用して、新しいストレージプールを作成します。
8. 前の手順で作成したストレージプールからCisco IQ Linkの最初のディスクを選択し、Choose Volumeをクリックします。
9. Choose an operating system type and versionの下で、AlmaLinux 9を選択し、Forwardをクリックします。
10. Choose Memory and CPU settingsの下で、スケールサイズに基づいて詳細を入力し、Forwardをクリックします。次を参照してください。 [ハードウェアおよびVMリソース要件](#)』を参照してください。
11. ダイアログボックスで、次の設定を行います。
 1. Ready to begin the installationの下で、Cisco IQ LinkインスタンスのNameを入力します。
 2. Customize configuration before installオプションをクリックします。
 3. Network selectionの下で、適切な仮想ネットワークを選択していることを確認します。
12. Finishをクリックして、最初のディスクの追加を完了します。
13. 次の手順に従って、残りの2台のディスクを追加します。

1. VMMコンソールで、Add Hardwareをクリックします。
2. Storageの下で、Select or create custom storageチェックボックスにチェックマークが入っていることを確認し、Manageをクリックします。
3. システムで展開したCisco IQ Linkファイルの2番目のディスクを参照して選択します。
4. Choose volumeをクリックします。
14. 同じ (ハードウェアの追加) 手順を繰り返して、3番目のCisco IQ Linkディスクを追加します。
15. すべてのディスクバスタイプがSCSIであることを確認します。
16. [Finish] をクリックします。
17. Overviewセクションで、FirmwareにUEFIを選択します。
18. Begin installationをクリックします。
19. 次を参照してください。 [ネットワーク設定](#)』を参照してください。


ネットワーク設定

1. VMコンソールからCisco IQ Linkを起動します。

```
##### WARNING!!! #####
##### READ THIS BEFORE ATTEMPTING TO LOGON #####
#
# This System is for the use of authorized users only. Individuals
# using this computer without authority, or in excess of their
# authority, are subject to having all of their activities on this
# system monitored and recorded by system personnel. In the course
# of monitoring individuals improperly using this system, or in the
# course of system maintenance, the activities of authorized users
# may also be monitored. Anyone using this system expressly
# consents to such monitoring and is advised that if such
# monitoring reveals possible criminal activity, system personnel
# may provide the evidence of such monitoring to law enforcement
# officials. You cannot copy, disclose, display or otherwise
# communicate the contents of this server except to other Cisco
# employees who have been authorized to access this server.
#
##### Confidential Information #####
login:
```

ログイン

2. ログイン名とパスワードの両方に「admin」と入力し、デフォルトのネットワーククレデンシャルを使用してコンソールにログインします。メインメニューが表示されます。

 注：インストールのこの段階では保護するデータがないため、初期設定でのみデフォルトのクレデンシャルが提供されます。



```
CISCO IQ

Navigation Main Menu

SYSTEM STATUS
Cisco IQ On-Prem  Not configured


CONFIGURATION SETTINGS
IP Address/Mask  Not Configured
Gateway IP      Not Configured
DNS List        Not Configured
Search Domain   Not Configured
NTP List        Not Configured
Hostname        CIQ-INFRA-HOST

MAIN MENU
[1] Configure Network Settings
[2] Configure System Orchestrator
[3] System Diagnostics
[4] Help
[5] About
[q] Quit

Select a menu option: _
```

メインメニュー

3. 「1」と入力してEnterキーを押し、ネットワーク設定を構成します。
4. 次のネットワーク設定を指定します。

 注：検出された値を使用するには、使用可能な場合はEnterキーを押します。

- IP アドレス
- ゲートウェイIP
- DNS IPリスト
- 検索ドメイン
- NTPサーバリスト

 注：カンマ区切り形式を使用した複数のNTPサーバの入力がサポートされています。

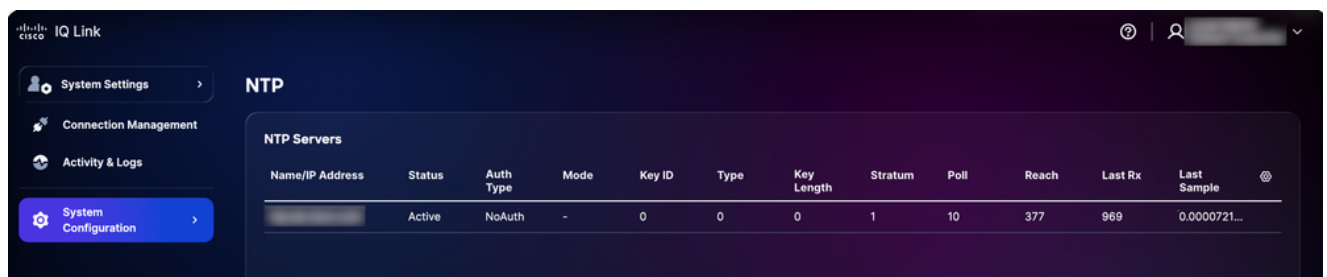
5. Nを押してNTP認証を設定し、認証方式を使用せずに続行します

または

Yを押して、次に示すオプションの対応する番号を入力します。

- 従来のキーベースの認証：提供されたクレデンシャルを使用して安全な時刻同期を行います。このオプションを選択した後、有効なアルゴリズムと16進数キーを入力します。
- ネットワークタイムセキュリティ(NTS):NTSプロトコルを使用して、セキュアなNTP通信を提供します

 注:NTP情報は、インストール後にSystem Settingsに移動して、UIで確認できます。



UIでのNTP検証

6. 画面上のパスワード要件を確認した後、パスワードを入力して確認します。
7. サマリを確認し、Yを押して続行します。セットアップには数分かかることがあります。
8. 正常に完了したことを示すメッセージが表示されたら、Enterキーを押してメインメニューに戻ります。

これでネットワーク設定は構成されましたが、Cisco IQ Linkはまだインストールされていません。vCenterに戻り、今後の参照用に新しいVMのスナップショットを作成しておくことをお勧めします。この時点で、新しく設定したIPアドレスとクレデンシャルを使用してセキュアシェル (SSH)接続を開始することもできます。

これで、Cisco IQ Linkの手動設定は完了です。

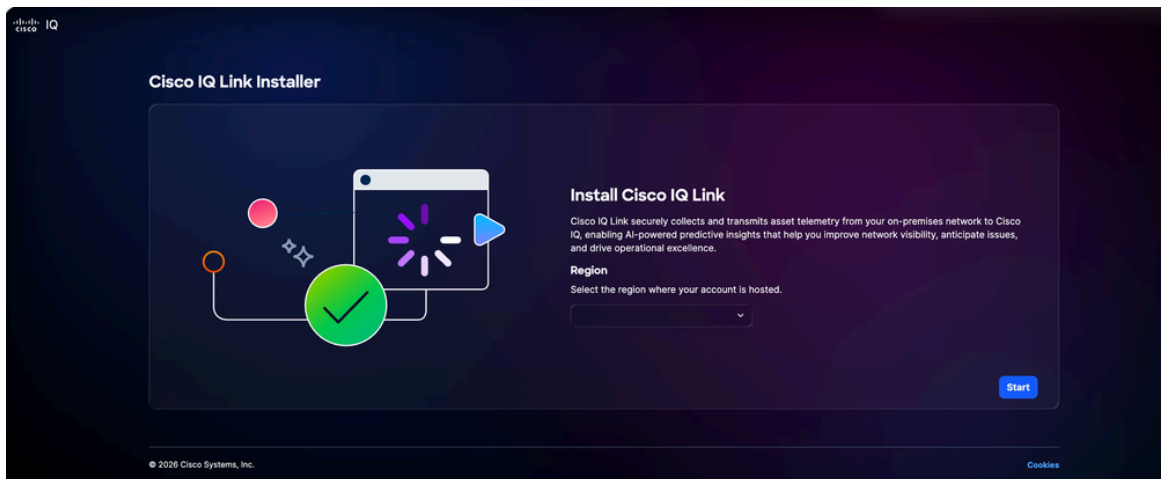
Cisco IQ Linkのインストール

始める前に:Cisco IQ LinkのインストールプロセスはCisco IQ内で開始されます。Cisco IQにCisco IQ Linkインスタンスを追加する処理が既に開始されていることを確認します(Home > System

Settings > Data Connectors > Add Cisco IQ Linkの順に移動します)。詳細については、『[Cisco IQスタートアップガイド](#)』の「Cisco IQリンクインスタンスの追加」を参照してください。このガイドは、完全なエンドツーエンドの導入ワークフローの主要なリソースです。

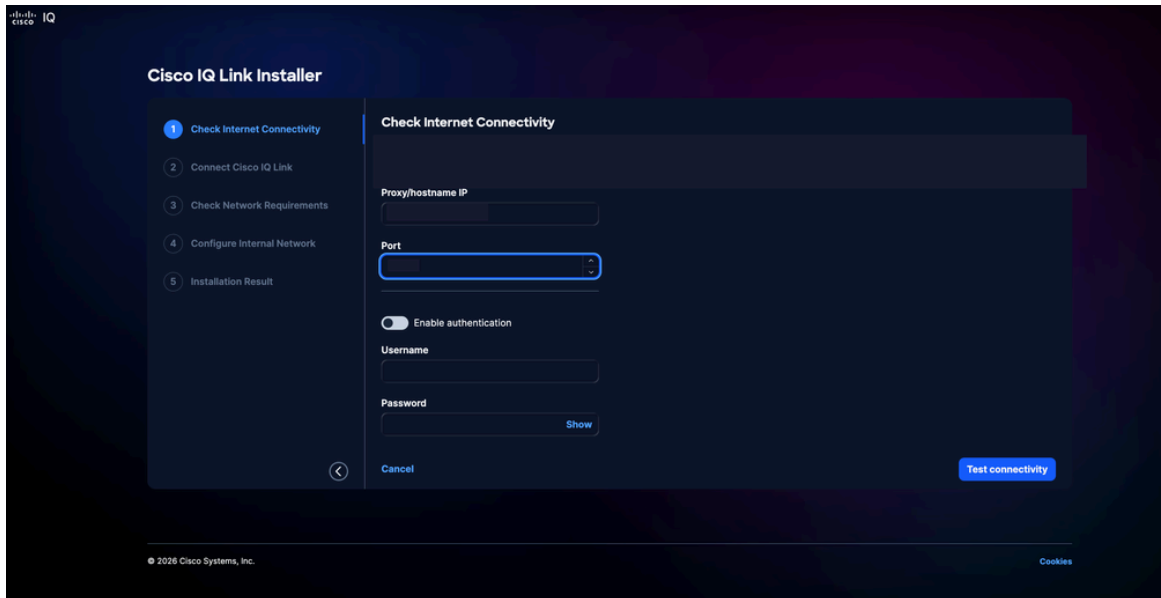
Cisco IQ Linkをインストールするには：

1. Cisco IQ LinkインストーラのWebインターフェイスに移動します (VMでCisco IQ Linkを設定した後に表示されます)。Cisco IQ Link Installerページが表示されます。



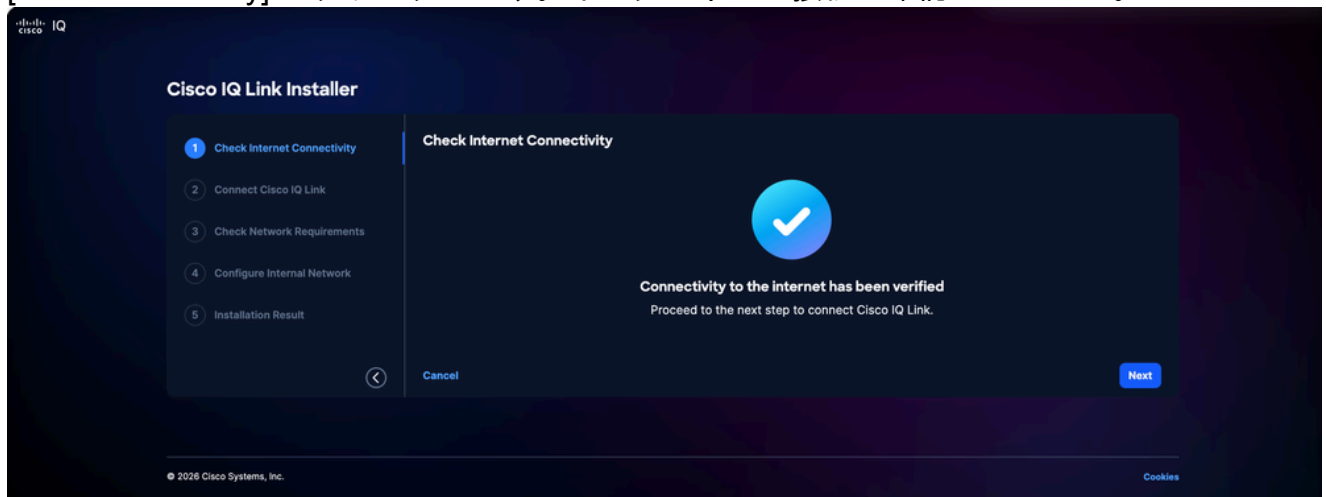
Cisco IQ Linkインストーラ

2. Region ドロップダウンリストから適切なリージョンを選択します。次のオプションを使用できます。
 - アメリカ
 - APJC
 - EMEA
3. [Start] をクリックします。Check Internet Connectivityタブが表示されます。




インターネット接続の確認

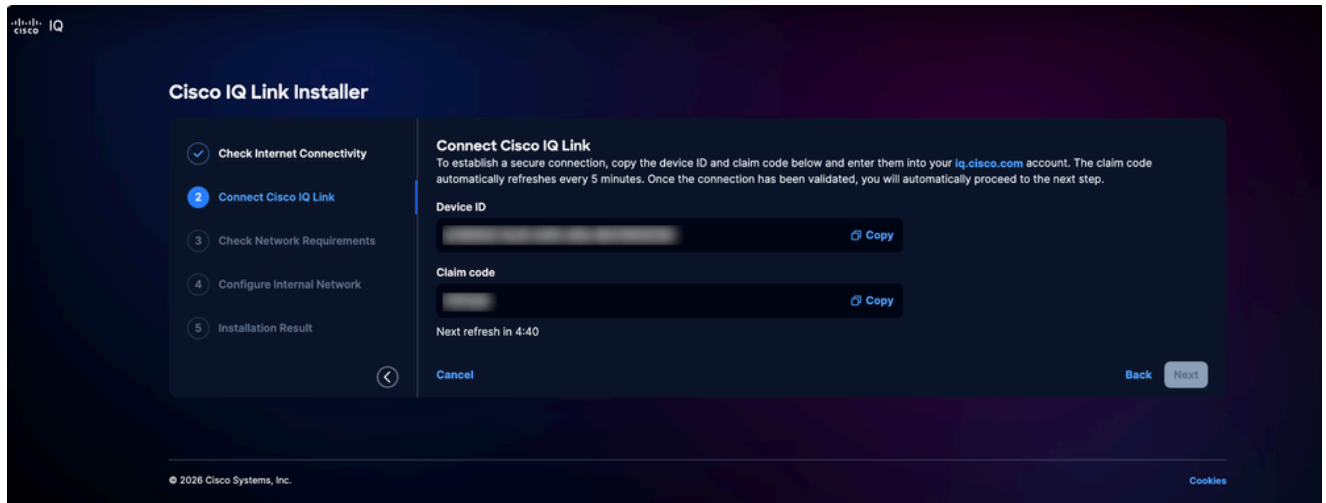
4. プロキシ設定が必要な場合は、Proxy/hostname IPを入力します。
5. ポート番号を入力します。
6. 必要に応じて、Enable Authentication トグルボタンをオンにします。
 1. ユーザ名を入力します。
 2. パスワードを入力します。
7. [Test Connectivity] をクリックします。インターネット接続が確認されました。



インターネット接続の確認

8. [Next] をクリックします。Connect Cisco IQ Link タブが表示され、デバイスIDとクレームコードが表示されます。

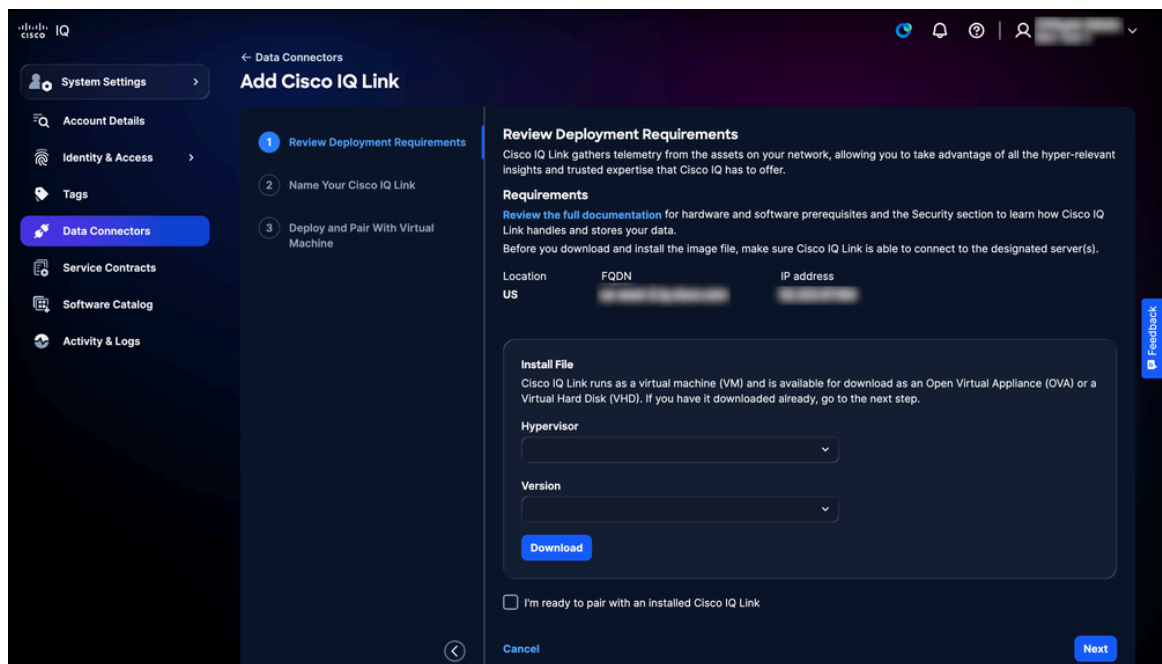
 注：後の手順でCisco IQに接続するには、デバイスIDとクレームコードが必要です。有効期間は5分で、その後は自動的に更新されます。



Cisco IQ Linkの接続

9. Cisco IQに戻り、Add Cisco IQ Linkページが表示されたままになっていることを確認します

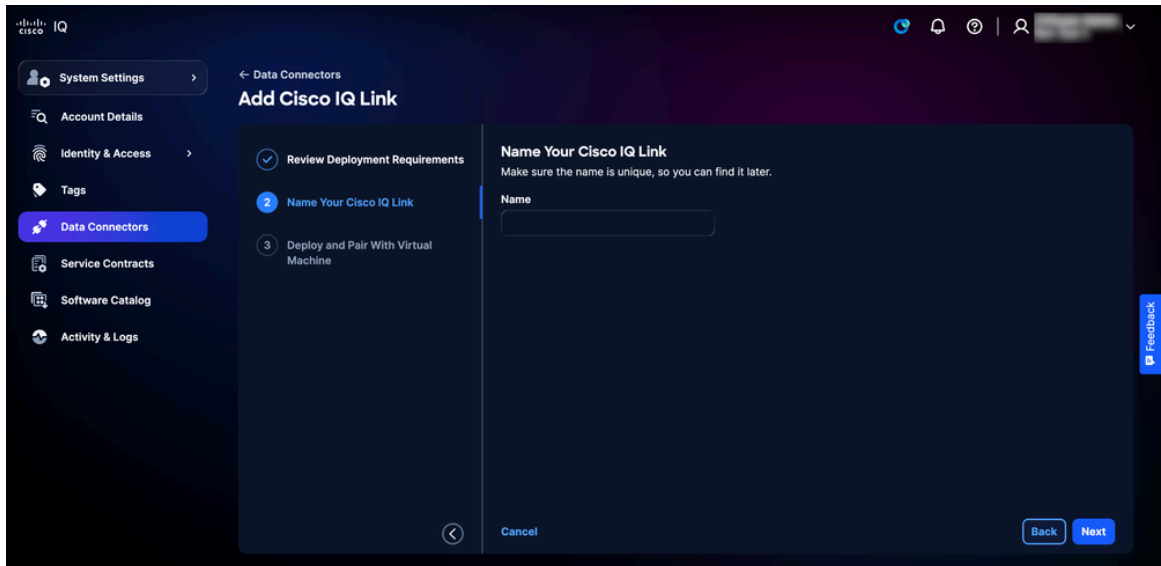
。



Cisco IQ Linkの追加

10. I am ready to pair with an installed Cisco IQ Linkチェックボックスにチェックマークを付けます。

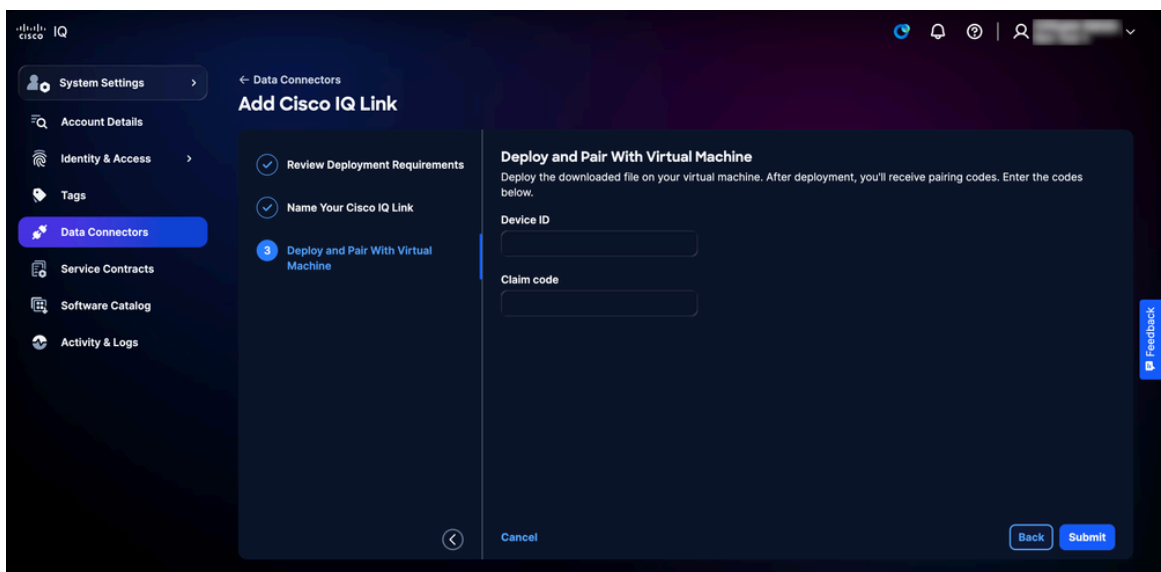
11. [Next] をクリックします。



Cisco IQ Linkの命名

12. Nameフィールドに、Cisco IQ Linkインスタンスの一意の名前を入力します。

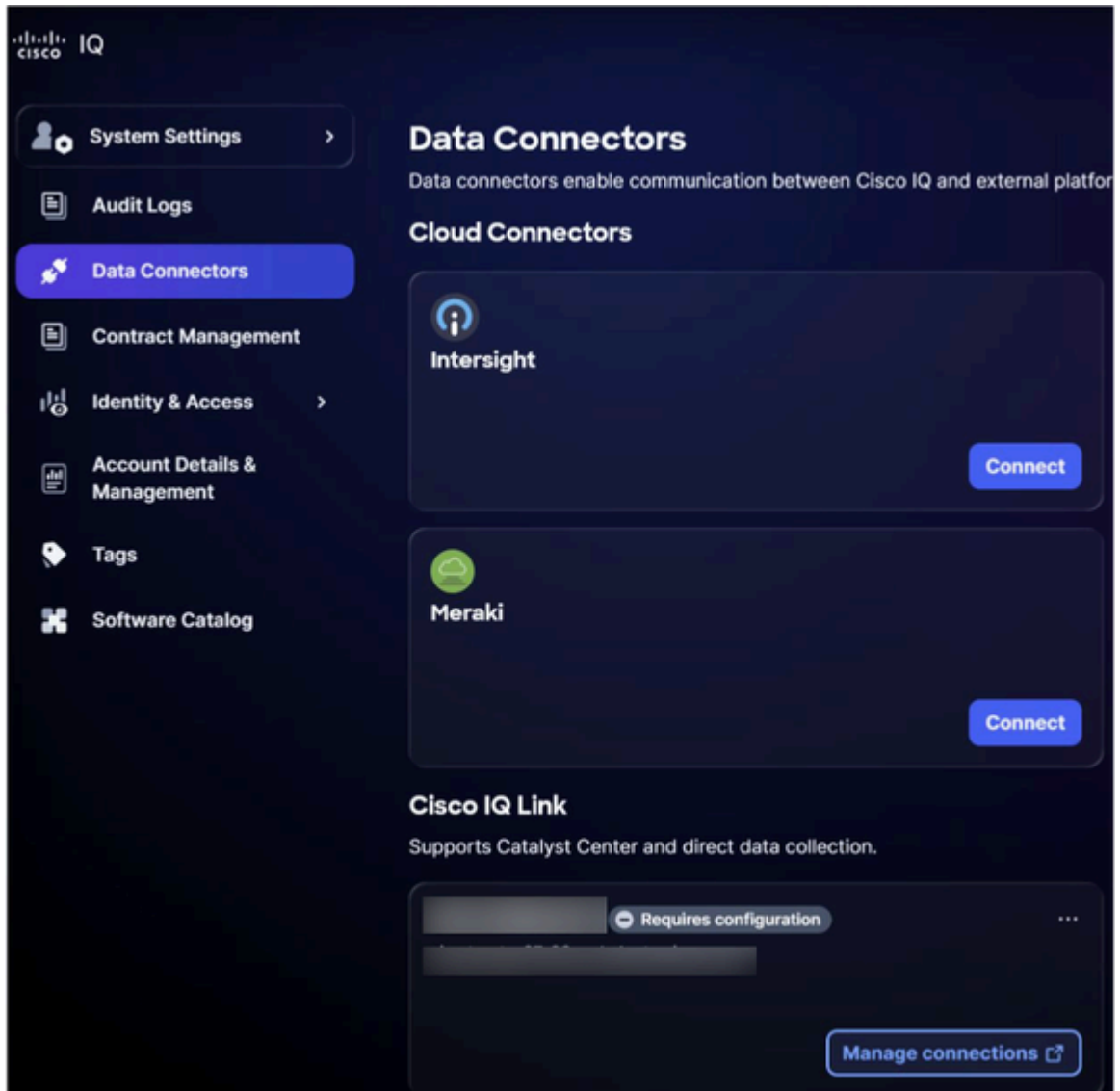
13. [Next] をクリックします。



導入とペア設定

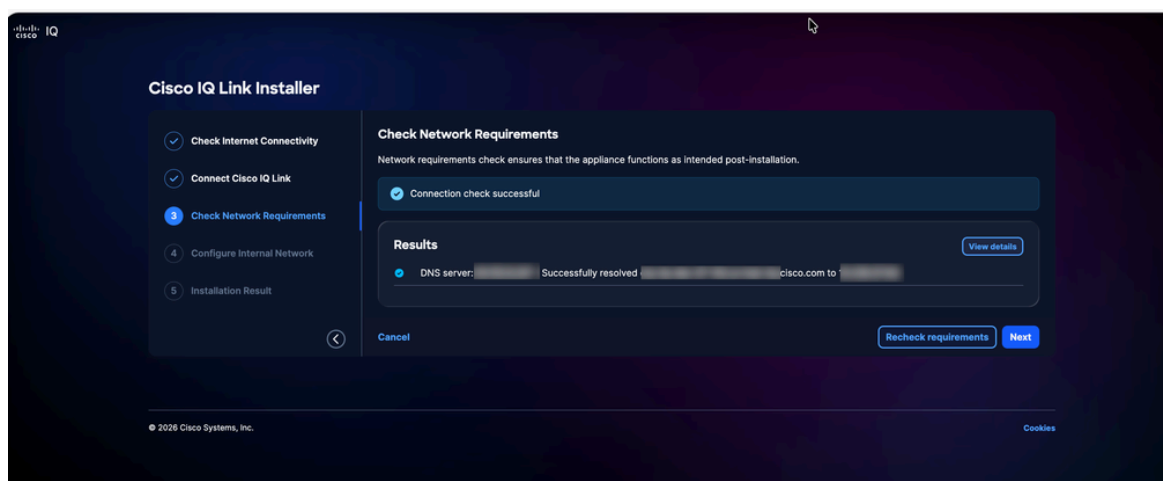
14. デバイスID(DID)とクレームコード (Cisco IQ Linkインストーラで提供) を入力します。

15. [Submit] をクリックします。データコネクタのページにリダイレクトされます。



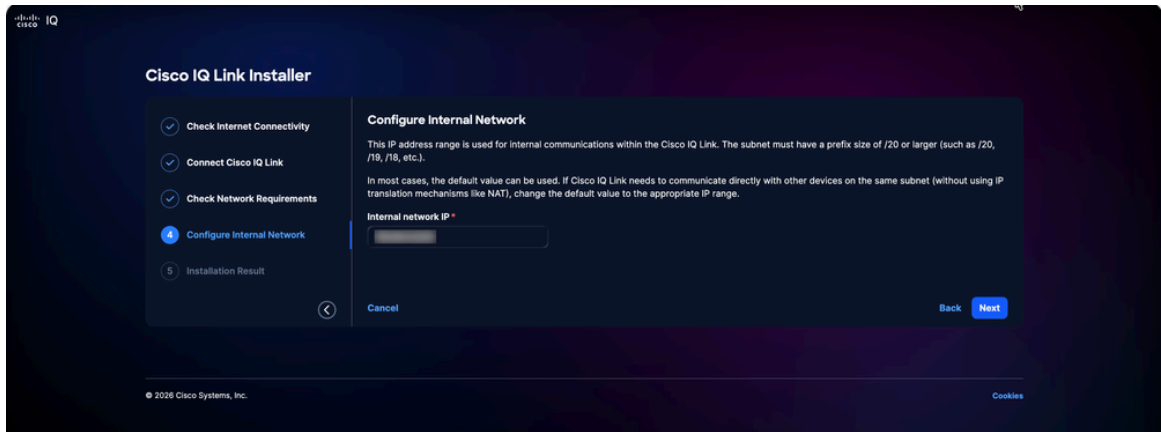
データコネクタ

16. Cisco IQ Link Installer Webページに戻ります。Check network requirementsページが表示されます。




ネットワーク要件の確認

17. [Next] をクリックします。Configure Internal Networkタブが表示されます。

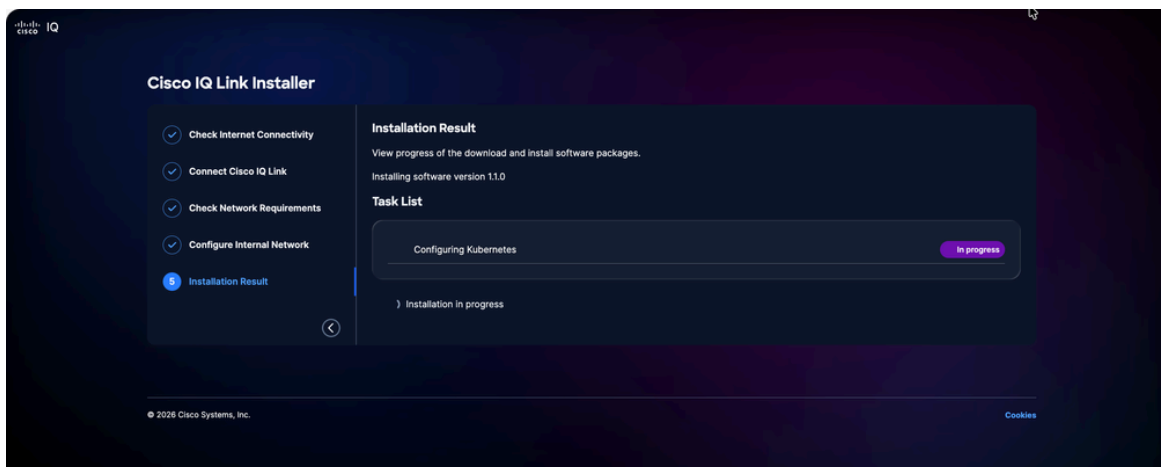


内部ネットワークの設定

18. 内部ネットワークIPを入力します。

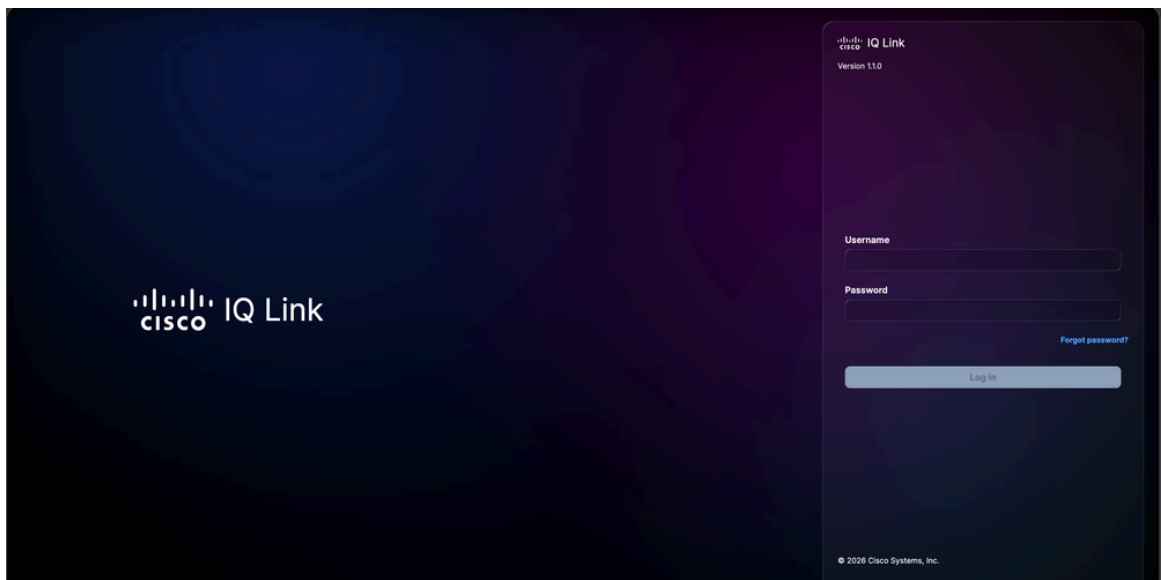
 注：指定されたIP範囲は、Cisco IQ Linkの内部通信用に予約されています。接続の問題を防ぐために、この範囲が外部デバイス（DNS、NTP、データソースなど）と重複しないようにしてください。この範囲内のIPが割り当てられた外部デバイスは、Cisco IQ Linkから到達不能です。

19. [Next] をクリックします。インストール結果ページが表示されます。



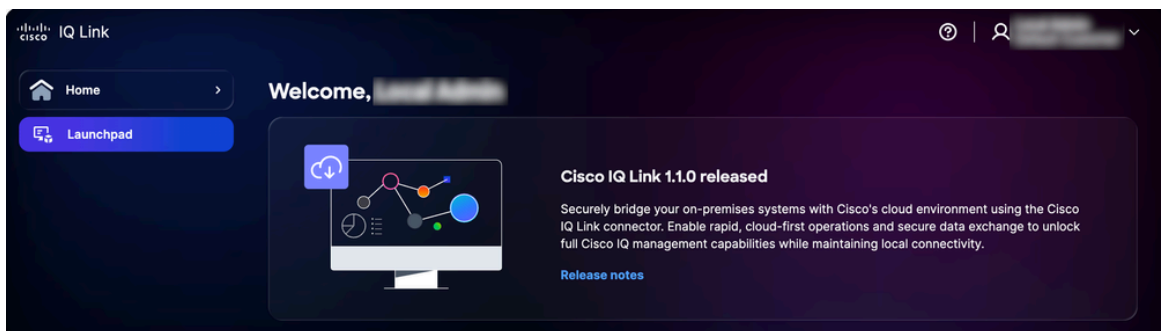
インストール結果

インストールが完了すると、ブラウザにCisco IQログインが表示されます。ネットワーク設定時に使用した管理者ユーザとパスワードのクレデンシャルを使用してログインできます。




Cisco IQ Linkログイン

20. Cisco IQ Linkにログインします。ホームページが表示されます。



Cisco IQ Linkの正常なインストール

 注：これ以降は、System Settings > Connection Managementの順に選択して、Cisco IQ Linkから接続を追加できます。Cisco IQ Linkの機能の詳細については、『Cisco IQ Link Operations Guide』の「Help」メニューにアクセスしてください。

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。